

Simple mail [シンプルメール]

## 導入ドキュメント（Postfix 編）

---

[メールリレーの設定方法] ver.1.6

# Postfix のメールリレー設定

## 本ドキュメントについて

---

Simple mail をご利用頂くにあたりメールリレーの設定方法を記載しております。

なお、メールサーバーの設定が完了しており、Linux OS の基本操作が可能なお客さまを対象としております。

## 接続形式について(メールリレーとは?)

---

メールリレーとは、メールをあるサーバーから別のサーバーへ転送することです。

例えば、ある会社 A の人が会社 B の人にメールを送る場合、通常メールは会社 A の SMTP サーバーから、会社 B のサーバーに送信されます。何らかの理由で、会社 A のサーバーから会社 B のサーバーに直接送信できない場合、会社 A、会社 B どちらのサーバーとも通信できる サーバー X を介して、メールを転送します。このように、特定のサーバーが別のサーバーからメールを受け取り中継することを「メールリレー」と呼びます。

## Postfix とは？

---

sendmail の操作上の互換を保ちつつ設定が容易、高速・安全性であることを目指して開発が進められた電子メールサーバソフトウェア（MTA）の一種です。

## GMO クラウドで対応している商材

---

サービス名	可否
GMO クラウド専用サーバー	○
GMO クラウドハウジング	○
パブリッククラウド（ALTUS）	○
プライベートクラウド	○
GMO クラウド VPS	○
WADAX 専用サーバー	○
ラピッドサイト VPS	○
iCLUSTA	×

## メールサーバーの設定の前に確認すること

---

### シンプルメール側の設定

シンプルメール側で、利用予定のドメインが追加されていることをご確認ください。

### メールサーバー側の設定

以下、メールリレー設定を行いますと、その時点より「シンプルメール」のメールサーバー経由でのメール配信となります。

初期設定値等、シンプルメールのコントロールパネルを一度ご確認くださいの上で、設定をお願いいたします。

※本設定作業は管理者権限で実施致します。作業の際には十分お気をつけください。

また、各設定ファイルについては編集前に オリジナルのファイルを保存して頂くことを **強く** お勧めいたします。

## 設定方法基本編

---

### 検証済み環境

Postfix v2.3 以前	CentOS 6
Postfix v2.3 以降(2.6.6)	CentOS 6

### MTA のバージョン確認方法

Postfix のバージョンを確認したい場合、以下のコマンドを実行してください。

#### 【コマンド】

```
postconf | grep mail_version
```

#### 【出力例】

```
mail_version = 2.6.6
```

```
milter_macro_v = $mail_name $mail_version
```

## SPF について

SPF(Sender Policy Framework)は DNS を利用した、なりすましメールを検出するための仕組みです。

Simple mail をご利用頂くにあたり、弊社 Simple mail のサーバーがお客さまのメールを中継した際に、お客さまのメールでご利用されるドメインと送信元（中継サーバー）の IP アドレスが合致しないため、メール受信先の SPF 認証でメールを受け付けないことがございます。

## 共通設定（SPF）

メールで利用するドメインを管理している DNS にて、以下の例のどちらかを SPF レコードの設定を追加してください。

### 【DNS 設定内容】

例 1) example.org. IN TXT "v=spf1 include:simplemail.jp ~all"

例 2) example.org. IN TXT "v=spf1 +ip4:180.222.177.137

+ip4:180.222.177.160/28 ~all"

※example.org.はドメインの例になりますので、ご利用の環境に応じて適宜変更してください。

バーチャルドメインを利用している場合、バーチャルドメインの DNS に SPF レコードを設定しても、メインドメインの DNS に SPF レコードが追加されていない場合は「なりすまし」と判断される場合がございますのでご注意ください。

## 設定方法（1 ドメインの場合）

下記ファイルを編集し、後述の設定を追加後、Postfix を再起動してください。

【ファイル】

/etc/postfix/main.cf

【設定】

relayhost = [mail.simplemail.jp]:25

## 設定方法（バーチャルドメインの場合）

対応が確認できているのは Postfix v2.3 以上のみとなります。

main.cf に sender\_dependent\_relayhost\_maps を追加してください。

例

sender\_dependent\_relayhost\_maps =

hash:/var/spool/postfix/plesk/sd\_relayhost\_map

sd\_relayhost\_map に Simple mail を利用するバーチャルドメインを以下の様に追記してください。

```
# Per-sender provider  
  
@domain1.com      [mail.simplemail.jp]  
  
@domain2.com      [mail.simplemail.jp]
```

sd\_relayhost\_map の作成が完了したら、postmap コマンドでデータベース化します。

```
postmap /var/spool/postfix/plesk/sd_relayhost_map
```

上記を実行することにより

```
/var/spool/postfix/plesk/sd_relayhost_map.db
```

が作成されます。

Postfix を再起動して設定を反映してください。



## セキュア接続

---

### セキュア接続について

本ドキュメントで対応するのは、お客さまご利用のメールサーバーからシンプルメールサーバーへの経路をセキュア接続するものです。

※各種メーラー/メールサーバー間のセキュア接続設定はお客さまにてご設定頂きますようお願い致します。

### stunnel とは

stunnel とは、既存のクライアント/サーバー間の通信を暗号化することができるソフトウェアです。

### 検証済み環境

stunnel 4.29 on x86_64-redhat-linux-gnu with OpenSSL 1.0.1e-fips 11 Feb 2013	CentOS 6.7
---	------------

### 設定方法

#### stunnel のインストール

下記コマンドを参考に stunnel をインストールしてください。

【適用コマンド】

```
yum install stunnel
```

stunnel の設定

下記ファイルを新規作成し、stunnel を起動してください。

CAfile はお客さまが利用している環境によって適宜変更が必要になる場合があります。

【ファイル】

```
/etc/stunnel/stunnel.conf
```

【設定】

```
pid = /var/run/stunnel.pid
```

```
output = /var/log/stunnel.log
```

```
CAfile = /etc/pki/tls/certs/ca-bundle.crt
```

```
[smtps]
```

```
accept = 10465
```

```
client = yes
```

```
connect = mail.simplemail.jp:465
```

【CAfile 設定例】

CentOS 6.7	/etc/pki/tls/certs/ca-bundle.crt
CentOS 7.1.1503	/etc/pki/ca-trust/extracted/pem/tls-ca-bundle.pem
Ubuntu 12.04	/etc/ssl/certs/ca-certificates.crt
Ubuntu 14.04	

【コマンド】

```
stunnel /etc/stunnel/stunnel.conf
```

postfix の設定(1 ドメインの場合)

下記ファイルを編集し、後述の設定を追加後、Postfix を再起動してください。

【ファイル】

```
/etc/postfix/main.cf
```

【設定】

```
relayhost = [localhost]:10465
```

postfix の設定(バーチャルドメインの場合)

対応が確認できているのは Postfix v2.3 以上 (検証済み環境は v2.6.6) となります。

main.cf に sender\_dependent\_relayhost\_maps を追加してください。

例

```
sender_dependent_relayhost_maps =  
hash:/var/spool/postfix/plesk/sd_relayhost_map
```

sd\_relayhost\_map に利用するバーチャルドメインを以下の様に追記してください。

```
# Per-sender provider  
  
@domain1.com      [localhost]:10465  
  
@domain2.com      [localhost]:10465
```

sd\_relayhost\_map の作成が完了したら、postmap コマンドでデータベース化します。

```
postmap /var/spool/postfix/plesk/sd_relayhost_map
```

上記を実行することにより

```
/var/spool/postfix/plesk/sd_relayhost_map.db
```

が作成されます。

Postfix 再起動して設定を反映してください。

## 注意点

---

- 1.本書の内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
- 2.本書の内容については、予告なしに変更される場合がございますのでご了承ください。
- 3.本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万が一不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がございましたらご連絡ください。
- 4.運用した結果の影響につきましては 3 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- 5.本サービスがお客さまにより不適當に使用、本書の内容に従わずに取り扱いされた場合の損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。